

# 病害虫発生注意報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 果樹カメムシ類の多発に注意 !!

県内各地の果樹園で、果樹カメムシ類の成虫飛来が5月中旬頃から多く確認されています。

今後、さらに飛来数が増加し、果実吸汁被害が多くなることが懸念されるため、防除の徹底が必要です。

### ◎病害虫名 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ)

1 作物名: 果樹(ナシ、リンゴ、モモ、カキ等)

2 発生地域: 県下全域

3 発生程度: 多い

4 注意報発令の根拠

(1) 県内 12 か所の4月4半旬～5月3半旬のフェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は 42.3 頭で、 平年(3.3 頭)より多い(過去 10 年で最も多い)。特に、5月1半旬以降誘殺数が急増している(図)。また、果樹園地内では、5月中旬頃から成虫飛来が多く確認されている。

(2) 新潟地方気象台発表によると、北陸地方の6～8月の気温は平年より高いと予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると推測される。

5 防除対策及び留意事項

(1) 果樹カメムシ類は、夜、気温が高く、風の弱い日に成虫(写真1～3)飛来が多く、また、飛来数は園地による差が大きい。このため、園地内への飛来状況の確認に努める。特に、山間部や山沿いの園地では被害を受けやすいので注意する。

(2) 園地内への飛来が確認される場合は速やかに防除を実施する。果樹カメムシ類は日没直後に果樹園に飛来するので、夕方や早朝の防除が有効である。

(3) 防除薬剤には、ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等がある。合成ピレスロイド剤は、防除効果が高く、残効性に優れるが、天敵等に対する影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。

(4) 農薬散布にあたっては、事前に周辺住民等に対して、十分な周知に努め、周辺作物や住宅地等への飛散防止に努める。

(5) 薬剤の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守する。

【参考資料】

◎ フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺数調査結果

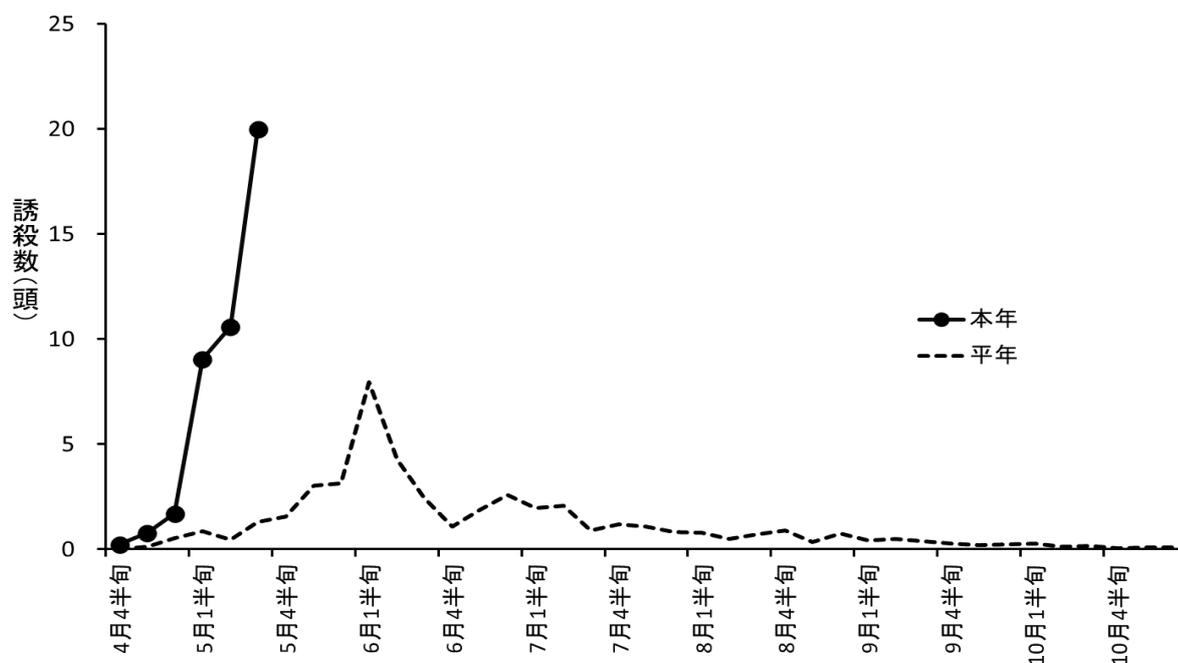


図 チャバネアオカメムシの誘殺数推移(県内12か所平均)



写真1 チャバネアオカメムシ成虫  
(体長10~12mm)



写真2 クサギカメムシ成虫  
(体長13~18mm)



写真3 ツヤアオカメムシ成虫  
(体長15~18mm)

問合せ先  
果樹研究センター  
TEL 0765-22-0185 FAX 0765-22-6930  
農業研究所 病理昆虫課  
TEL 076-429-5249 FAX 076-429-2701